

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	草津市立草津中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	6	1	19	39
生徒数	208	222	204	1	635	

研究の概要

1. 研究主題

「命かがやき心豊かな生徒の育成」 ～確かな学力を育むための指導方法の工夫・改善～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生 数学 国語 中学校に入学したときからすでに能力差があり、それを解消するために少人数の指導や指導法の工夫をおこなった。 2年生 国語、音楽、体育、理科 学習に対する意欲や関心、個人差が生じやすいので指導と評価の一体化を目指す研究をおこなった。</p>

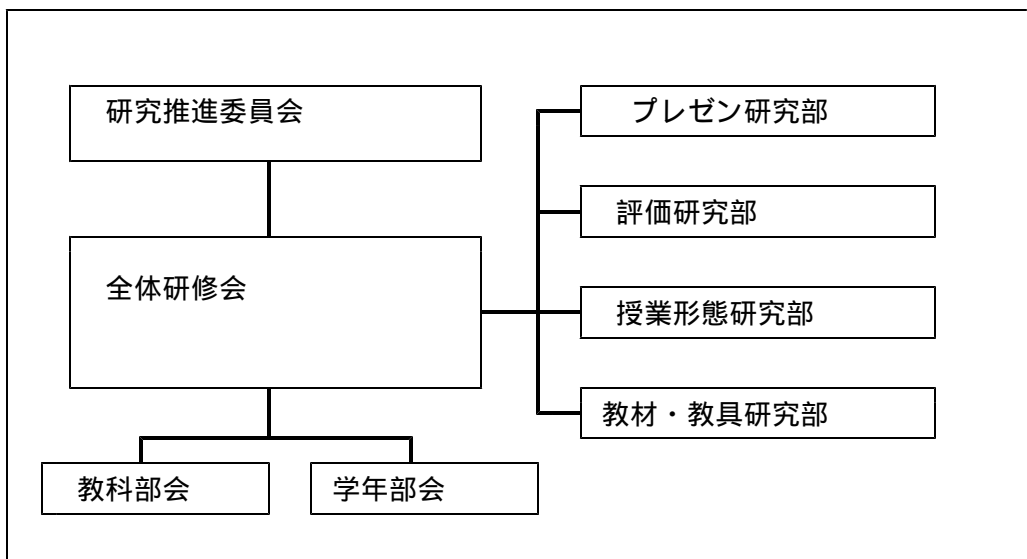
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>確かな学力を育むための指導法の工夫・改善 研究の見通し 「確かな学力」向上に向けて社会の変化に対応した指導のあり方と社会が変化しても変わらない指導のあり方がある。このことを見極める力をつけることにより、指導力の向上を図る 研究の内容・方法 授業改善に向けて教員一人一課題を設定し、計画、立案、実践、評価を行っていく。(課題は研究内容のなかからひとつ選択する。)</p> <p>研究内容 個々の生徒の適性に応じた授業の工夫 プレゼンテーションの工夫(プロジェクター、ビデオ、OHPの利用) 調べ学習から発表の場面を取り入れた授業の工夫 外部教師(人材活用)の活用 少人数授業の指導方法の工夫 教材(補助プリント等)の開発 習熟度別学習の実施とその工夫 評価テスト実施とその工夫</p> <p>評価研究 指導と評価の一体化の研究 評価テストの工夫 その他(評価カード、自己評価点検表など)</p> <p>確かな学力を育む教育課程の工夫 基礎学力を培う自主学習の工夫(宿題、朝学習) 意欲を引き出す選択教科での取組み(ねらいを定める)</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>確かな学力を育むための指導法の工夫・改善</p> <p>「確かな学力」向上に向けて社会の変化に対応した指導のあり方と社会が変化しても変わらない指導のあり方がある。このことを見極める力をつけることにより、指導力の向上を図る</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>15年度の研究成果をもとに4つの分野にわかれてさらに研究を深める。</p> <p>個々の生徒の適性に合った授業の工夫</p> <p>問題解決学習の取組み（総合的な学習 インターネット等の利用）</p> <p>調べ学習から発表の場面を取り入れた授業の工夫</p> <p>外部教師（人材活用）の活用</p> <p>少人数授業の指導方法の工夫</p> <p>教材（補助プリント等）の開発</p> <p>習熟度別学習の実施とその工夫</p> <p>評価テスト実施とその工夫</p> <p>評価研究</p> <p>指導と評価の一体化の研究</p> <p>評価テストの工夫</p> <p>その他（評価カード、自己評価点検表など）</p> <p>確かな学力を育む教育課程の工夫</p> <p>基礎学力を培う学習の工夫（選択教科）</p> <p>意欲を引き出す選択教科での取組み（集中選択の実施）</p>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>授業形態の工夫</p> <p>1年 数学 少人数指導の実施</p> <p>領域・単元の指導目標にあった、効果的なグループ編成のあり方を、常に2人の教師で考え、改善を加えていく。</p> <p>年度当初（等質グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラスを男女混合で2グループに分ける。 ・男女それぞれに名簿順で、前半後半にわける。1学期と2学期は教師が交替 <p>単元計画の中での効果的な少人数指導の活用の仕方を探る。</p>

2年 音楽

日々の授業の中で以下の3点についての取組みを実践・充実させていくことによって仮説に迫った。

(1) 授業記録

- ・授業の学習内容、目標がわかり学習の足跡がわかる。
- ・学習準備や学習習慣について振り返りができる。
- ・学習についての評価がわかる。
- ・教師との人間関係づくりができる。

(2) ITによる授業形態

- ・一斉学習よりも生徒に関わり、変容を観察できる。
- ・教師の特性を生かした分野での授業構築ができる。

(3) グループ学習

- ・主に合唱コンクールの取組みから、互いに協力し学習していける人間関係づくりができる。
- ・互いにアイデアを出し合い力を高めあえる集団づくりをめざすことができる。

評価についての研究

2年 国語 指導と評価の一体化

視聴覚機器やワークシートを活用し、意欲を引き出す授業の工夫をする。さらに、使用したワークシートやノート等への評価によってその意欲を持続し、主体的に授業に取り組めるように支援する。その評価方法や支援について具体的に検討する。

2年 理科

評定のつけかたが相対評価から絶対評価に変わった。、それで観点別の評価の方法を明らかにしていき、その上にたつ5段階評定をわかりやすくし、生徒自身が自分の学習の目標を設定しやすい工夫をしていった。

2年 保健体育 やる気を引き出す評価のあり方

実技教科ではできた、できなかったということがはっきりしている。しかし、評価はそれだけでされるものではない。生徒一人ひとりが自分の状態を知り、どうすればよいのかを考え、工夫をしようとする姿勢も含まれる。このようなことを取り入れていく評価のあり方とはどうすればよいのかを明らかにしていった。

授業のなかのプレゼンテーションの工夫

1年 国語

国語科の授業は板書 ノートにまとめるという形式のことが多く、図や表を使うことも少ない。そこで、プロジェクターを用いて、物語文で、登場人物の気持ちの動きを視覚化することを考えた。

教材「空中ブランコ乗りのキキ」・第3場面での、キキの心の動きをとらえるための、キキのセリフをそれぞれが切り抜き、感情曲線を作るようにノートに貼り付ける活動をする。

教師はあらかじめ、パワーポイントにより、キキの心の動きの曲線を表すデータを作成し、プロジェクターにより、生徒に図示する。キキの気持ちがどうであるのか、それぞれのセリフの理由を考えられるようにしていった。

2. 今後の課題

評価のあり方についてはすべての教科で検討を加え、観点別評価と5段階評定との整合性を図った。その結果、指導と評価の一体化ということが見え始めた。教師の指導目標は即、生徒の学習目標でもある。生徒に学習目標を正しくとらえさせることは自分につけなければならない力は何であるかを知らせることにもなる。今後は知識・理解にかたよりがちな生徒の考えを生涯にわたって学習できる力をどうつけていくのかを考えていきたい。

学力把握のための学校としての取組

全学年

1学期

中間テスト(6月) 期末テスト(7月)

2学期

夏休み宿題テスト(9月) 中間テスト(10月) 期末テスト(12月)

3学期

冬休み宿題テスト(1月) 実力テスト(2月) 期末テスト(2月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定(日時、場所、対象、会の目的等)	
平成15年度夏期研修会	
平成15年8月22日(金) 9:00~12:00	
場所	草津中学校多目的室
対象	草津中学校教職員
講師	彦根東中学校教務主任 夏原 淳子 先生
目的	「確かな学力を育むための指導法の工夫・改善」をテーマに話し合う。
平成15年度 草津市教育委員会「教育課程計画訪問」	
平成15年度学力向上フロンティア事業にかかる授業研究会	
平成15年11月25日(月) 13:30~17:00	
場所	草津中学校
対象	草津中学校教職員 市内中学校国語科教員 第2ブロックフロンティア スクール教員
講師	草津市教育委員会学校教育課副参事 宇野 和子 先生
目的	授業研究(国語および授業改善についての研修)
平成16年2月18日(水) 学力向上フロンティア校内研修会	
場所	草津中学校 多目的室
対象	草津中学校教職員および市内中学校教職員希望者
講師	大阪市立新東三国小学校教諭 原田 誉一 先生
目的	「環境保護と授業改善(漫才授業)」
* 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績(学校としての 創意工夫を含む)および今後の予定 保護者・生徒に取組みを知らせるためのパンフレットを作成し、配布する。 (入学説明会、PTA総会等)	
* フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及のための活動実績または 予定	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下 7~9学級 13~15学級	4~6学級 10~12学級 16学級以上	
【指導体制】	少人数指導 その他	TTによる指導	
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 数学 美術 その他	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無